

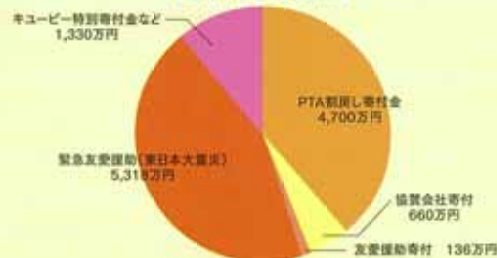
## 感謝の メッセージ

心のこもった感謝の手紙や写真がいっぱい、被災校から財団に寄せられています。校内には、明日に向かって立ち上がる力強いメッセージなどが掲示され、わたしたちも元気づけられます。

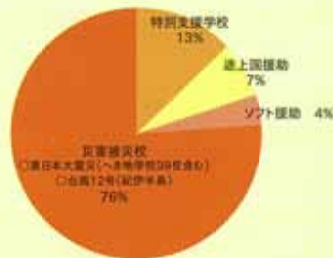


### 2011年度実績

#### 寄付金収入内訳 (合計1億2996万円)



#### 援助内訳



#### 【ベルマーク財団の被災校支援】

2011年度は、大地震・津波発生直後の緊急援助として、岩手・宮城・福島・茨城の4県に、総計でノート10万冊・鉛筆10万本・パステルクレヨン3000セットを贈り、その後、4県の257校を対象に、1校50万円を限度に各校が希望する設備品・教材を寄贈しました。2012年度は、同じようにまず4県232校を支援したほか、秋には新規追加として岩手・宮城・福島3県の204校に、1校30万円分～10万円分を贈りました。また新たな支援策として、宮城県内43中学校の部活動などで使う移動バス費用の一部として300万円を宮城県校長会に託しました。



## 被災校の子どもたちへ 東日本大震災とベルマーク



2011年3月11日。あの未曾有の災害は数多くの学校にも襲いかかりました。子どもたちに必要なものは？ わたしたちにできることは？ 考え、悩みながら取り組んだベルマーク運動や被災校の小さな写真記録です。復興への道はなお険しく、すべきことはたくさんあります。これからも息の長い、そして幅の広い支援を続けなければなりません。



公益財団法人 ベルマーク教育助成財団

<http://www.bellmark.or.jp/>

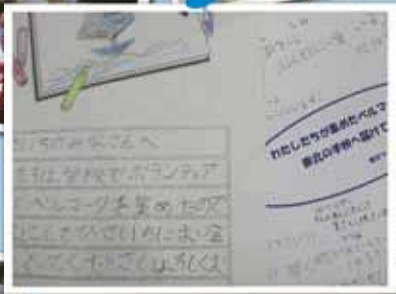


公益財団法人 ベルマーク教育助成財団



## 被災校に 思いを寄せて

ベルマーク運動に参加している学校・団体や協賛会社・協力会社からたくさんの緊急支援が寄せられました。またベルマーク教育助成財団は、全国から数多くの寄贈ベルマークをいただきました。祭り会場の一角にテントを張って寄贈を呼びかけた有志もいらっしゃいます。財団事務所にもいろいろな企業・団体・個人がマークを届けてくださいました。マークを集めた子どもたちが一生懸命に書いたメッセージもあります。ボランティアとしてマークを集計してくれた新成人たちもいました。



まず緊急支援として、ノートや鉛筆、クレヨンを財団は贈りました。



大地震・津波から2年目、被災した学校はどういう困難を抱え、何を必要としているのか、財団は2012年8月から9月にかけて現地を回り、学校や校長会の会議の場などで実情や要望を聞きました。



## 未来に向けて 立ち上がる

被災地の学校の苦しい状況は続いています。小学・中学5校がいっしょに入った合同プレハブ校舎や、工場管理棟だった建物を仮校舎にしているところもあります。校庭いっぱい仮設住宅が建てられ、子どもたちは運動に使えません。東京電力福島第一原発事故のため、線量計を置いている学校も少なくありません。



わたしたちの支援で整えた書棚などの設備品や教材、スポーツ用品を活用し、子どもたちは元気に前へ進んでいます。財団は、部活動などで生徒が移動する際に使うバス費用の一部を支援する事業も試験的に始めました。波の実験教室も開かれました。



このページの写真は、岩手・宮城・福島3県の各地で撮影しました。